

Warming Up (5)

Friends are hard to come by
Who are as nice as you,
So remember me until you die
And I'll remember too
— Penny Lipkin

このシンプルな詩を書いて送ってくれたのは、シカゴに住むかつてのペンフレンド。私が中学校 2 年の時です。文通はずっと中断していた時期がありましたが、私が日本のテンブル大学の理事になり、彼女もアメリカで同大学の理事に就き、名簿を見ていてもしかして同一人物かしら、と連絡をくれてから再びメールのやり取りが始まりました。初めて face-to-face でお会いしたのは今から 5 年ほど前、サンフランシスコでのこと。彼女は弁護士になり、やがてネブラスカ州の大学の法学部長から地元の評判所で判事になっていました。また 3 年前にはシアトルに住む 2 人のお子さんの家を訪れる機会もありました。不思議なご縁です。

The inscrutable enigmatic Japanese
Whose look belies
How much he perceives
With his two little eyes
Cherubic as only Botticelli can make
With dimples, curls and rose-bud lips,
But watch the wit when he awakes
As piercingly sharp the unwary he rips
— Shirley Hew

今から 40 年ほど前、当時勤めていた会社のシンガポール・オフィスの女性 AE が送ってくれたものです。Kuala Lumpur 郊外の Fraser's Hill で行われた数日間の社内研修に参加した 30 代後半の杉田敏のことを観察し、詩にしてくれました。それから二人とも転職をしましたが、数年後に私が家族を連れてシンガポールに行った折に、あちらの家族と一緒に食事をしたのですが、この詩を見せると、まったく覚えていないというのです。ほぼ即興で詩を書き、それも忘れてしまう…すごい能力の持ち主と大いに感動しました。

I kept six honest serving men
They taught me all I knew:
Their names are What and Why and When
And How and Where and Who
— Rudyard Kipling

5W1H を駆使すれば、森羅万象を知ることができる、ということです。日本では「聞くは一時の恥、聞かぬは末代の恥」などと言いますが、アメリカでは、**There are no stupid questions; only stupid answers.** などとよく言われました。「こんなバカな質問をしてもいいのかしら」などと気を使わせないための心遣いです。